

日韓・韓日未来パートナーシップ基金共同事業 第6回日韓高校教師交流プログラムを実施

2026年8月23日～28日

「日韓・韓日未来パートナーシップ基金」共同事業 日本教師韓国派遣プログラム

参加者：日本の高校教師約50人

経団連が設立した日韓未来パートナーシップ基金（十倉雅和理事長）と韓国経済人協会（韓経協）による韓日未来パートナーシップ財団は、未来志向の日韓関係の構築に向け、若手人材の交流に取り組んでいる。

その事業の運営を担う経済広報センター（筒井義信会長）は、8月23～28日の6日間、日本の高校教師約50人を韓国に派遣し、学校や企業の視察などを行う日韓高校教師交流プログラムを実施した。

同プログラムは、教育現場の第一線に立つ日韓の高校教師らが交流し、将来にわたる相互理解の増進を図るもの。

日本の高校教師の訪韓は、2025年8月に続き3回目。同プログラムによる相互交流は、24年1月の韓国教師の訪日に始まり、今回で通算6回目となった。

■教育現場視察

西仁川高等学校、京畿航空高等学校、ハナ高等学校を訪問した。

各校では、教育方針、カリキュラム、進学状況などについて説明を受け、授業や校内施設を視察。日韓の教師、生徒らと教育現場の課題を巡って活発に意見を交わした。

■企業視察

CJグループが展開する韓国最大のヘルス&ビューティーストア「オリーブヤング」聖水旗艦店では、世界のトレンドを牽引するKビューティの多角的な成長戦略について理解を深めた。

サムスンが運営する電子産業博物館「サムスンイノベーションミュージアム」では、電気・半導体産業の歴史に触れながら、同社が誇る最先端の技術革新の数々を視察した。

韓国取引所および併設資料館では、韓国経済の発展を支える資本市場の歴史的変遷や金融システムの機能を学んだ。

■有識者による講話

在韓国日本大使館の大西一義経済担当公使は、外交官として諸外国との良好な関係構築に取り組んできた豊富な経験を踏まえ、二国間や多国間の外交について講話。日本教師たちが帰国後、授業などで接する未来を担う生徒たちに、熱いエールを送った。

成均館大学のペ・サンフン教育学部教授、韓国科学技術院A I大学院のチェ・ジェシク准教授からは、人口減少時代の教育・人材育成のパラダイムシフトや、A Iが産業や教育現場に大きな変化をもたらすなかで人間が担うべき役割などを聴いた。

■平和学習、文化体験

北朝鮮を間近に臨む「都羅展望台」や緊迫した歴史を現在に伝える「第3トンネル」を含む非武装地帯を視察した。

参加者は、分断の現実と平和の尊さを胸に刻むとともに、朝鮮半島が抱える歴史的背景や現状について思索を深める極めて重要な機会となった。

この他、K-POPダンスや伝統歌劇「パンソリ」を体験し、時空を超えて息づく韓国の多彩な文化に直接触れた。

■送別レセプション

8月27日には送別レセプションが開催された。

主催者あいさつで韓経協のリュ・ジン会長は、韓日両国が25年の国交正常化60周年を経て新たな時代に入ったと強調。26年5月の安東を舞台とした日韓シャトル外交の成果に触れ、両国の教師が次代を切り開く若者を教え導くことで新しい世代の交流が一層活発化することに期待を示した。

来賓のチョン・ウィへ韓国外交部次官補は、両国の未来世代が真に近しい関係を構築するためにも、今回の交流事業は大変意義深いと述べた。

日本教師を代表し、東京都立日比谷高等学校の岡本優太教諭があいさつ。今回の韓国訪問の成果として、過去から現在、未来に至る韓国の歴史や発展する社会の姿を多角的に学んだことを挙げた。

来賓の在韓国日本大使館の中條一夫総括公使は「国と国との関係の拡大、深化には政府のみならず、民間、文化など重層的な交流が必要不可欠だ。日本の教師が重要なパートナーである韓国を訪れて韓国の教師や生徒らと直接言葉を交わし、理解を深めることは大切だ」と述べた。

レセプションには、26年1月の第5回交流事業で訪日した多くの韓国教師も参加。日本教師たちと日頃の教育現場の課題などを巡り、熱心に意見を交わした。



意見交換する日韓教師／ハナ高等学校にて

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。